

故人の選挙権!

清き一票となる

湯本の新違反事件

平署特高係は去る三日湯本町から土工松本春吉(三)を選挙違反の嫌疑で引致し目下取調中であるが同人は五月中旬脳溢血で死亡した實父徳太郎の選挙権を行使した事實が発覚したものらしく目下嚴重取調中であるが湯本町役場では七月十七日に死亡届を受付て故人に入場券を配布し更に投票當日は係員が名簿と引合せて居りながら投票させたことは大失態と見られて居ると

上遠野青年

自轉車で視察

上遠野村青年團並に青年學校生徒五十名は自轉車隊を組織して二日前午五時同村出發神谷村の縣農事試驗場を見學して草野村の篤農家を高水誠一氏を訪問、同氏の農業經營談を聴きそれより四倉、大浦村農業倉庫、藤市、石城販賣利用組合經營の菜種油榨油場を視察して午後七時歸村した

激突され絶命

既報 昨四日朝豊岡村沼ノ内地内縣道で江名町の武藤泰(三)が運轉するトラックに激突され内臓出血の爲め平町上

傷だらけの屍體が漂着

時化の遭難者か

身許全々不明

江名町大字下神白字松下地内海岸砂上に溺死體漂着しあるを一日午前九時頃同所を通行した江名町大字下神白字神八農馬自己之松が發見届出たが検視の結果同死體は推定年齢五十五六才の男で顔面に長さ三センチ幅一センチの裂傷あり尙全

世界館で

映畫と音楽 樂獎勵會では東都樂壇のソリソク

ソプラノの名手土岐妙子嬢一行を迎へて来る九日午後一時より晝夜二回世界館で映畫と音楽の會を開催するが土岐嬢は東京音楽學校出身都下音楽學校新人紹介演奏會のスターにデビューし壓倒的人氣を獲り得た新進であるが因に映畫は皇國大海軍と稱するオールトキーである由

草野稻作憂慮

草野村地方稲作は平年作を豫想されてゐたが天候不順と冷害に妨げられ晚稲作は殆ん

大暴れの自動車

運轉手罰金三百圓

業務上過失致死事件を惹起して間もなく再び緩國道で通行人三名に瀕死の重傷を負はした内郷綴字秋山三五自動車運轉手石山七郎(三)に係る業務上過失傷害及び致死事件公判は今日平區香西判事係りで開廷前記罪名で略式罰金三百圓を言渡された

同人は去る五月三十日午後一時頃湯本平間のバスを運轉内郷村大字小島新町で同村中山章平を轢き

男女が判らぬ腐爛屍體に疑ひ

平署警官隊急行

上小川村宇江田地内山林中に男女不明の腐爛屍體あるを通行人が今朝發見死因

に幾分疑あるため早速平署より菊地部長等が現場に出張した

天 今晩悪明日北 東の風幾分悪くなる

今晩の部 後六〇〇 子供の時間 お伽漫談 モダン浦島 徳川夢聲 後六二五 講演「艦隊の訓練について」 日比野海軍少將 後七三〇 吹奏樂 海軍 々々樂隊合同演奏

學校衛生

教育部會研究

石城郡教育部會では来る十日午前九時より小名濱小學校講堂に郡下小學校衛生研究會を開く

平裁判たより

△草野村大字下神谷字内宿五二農製材職工西家秀太郎(三)は去る八月三十日午後七時頃借家である前記居宅二階へ道具運搬のため使用した提灯を置き忘れ發火し同家及び隣家の志賀安太郎宅一棟を全焼し失火罪にて略式罰金二百圓

東京のパンヤで

見習十五名募集

素晴らしく繁忙な平紹介所

平職業紹介所は海岸地方の漁港活況と共に求人、求職何れも多忙を極めてゐるが先般の昭和人の女工三百名の大量募集を筆頭に岐阜大垣市の女工三百名、東京家庭購買組合の店員卅名等素晴らしく繁忙を見せてゐる折柄亦々東京某パン屋から見習十五名申込あり同紹介所で申込を受けつけてゐる、これは十五名中十名はパン製造見習、五名は料理コック見習で何れも學業中位以上の者給料は三食付六、七圓検査まで勤務のものには二百圓の積立金を呉れるとのことで年齢は十六から十八才迄二回公休がある、因に希望者は履歴書に學業成績證明書、戸籍謄本、健康診断書、手札型寫眞、紙抜き等を添へて同紹介所迄申込されたいと、但し近眼は拒否される由である

- △求人求める方 平職業紹介所廣告
- △食堂女中 廿三迄 尋卒
- △旅館女中 卅才迄 尋卒
- △官署人夫 五〇才以下 日給七〇錢
- △植字印刷工 廿五才以下 高卒以上 月給廿五圓
- △人絹會社 女工 尋卒 日給卅錢
- △蒲鉾製造廠 夫 廿三才 卅才迄 尋卒 月給十圓
- △建具商女中 廿三才迄 尋卒 住込月五圓
- △書生 十五才 高卒住込一圓仕着
- △職を求むる方
- △事務員 廿四才 甲種商
- △外交員 廿六才 高卒
- △外交員 卅一才 高卒
- △硝子商店員 廿二才 高
- △雜役 廿六才 尋四修
- △網糸男工 十九才 高卒



明治太平記

(編輯)

(作) 寺島雄史

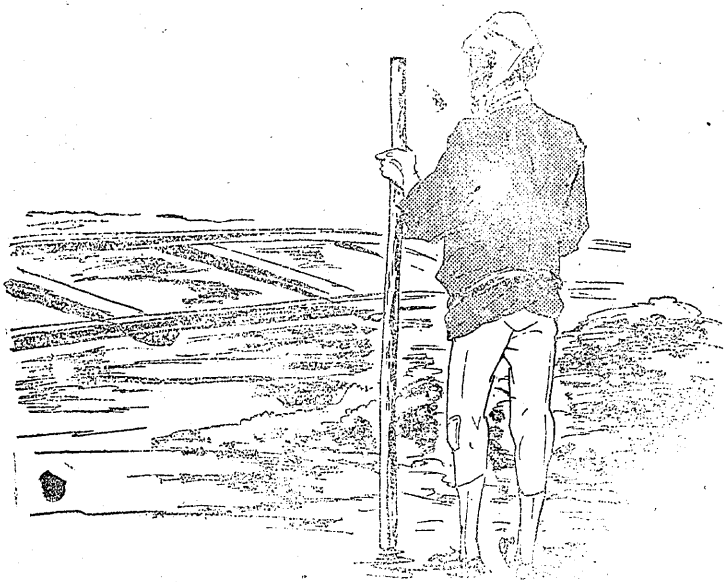
第二回四十三回

自嘲 (二)

墮落したぞ！
 が、さうかといつてさ
 さら旗本のむかしにかへる
 ことを、時勢はゆるさぬ。
 自分ひとり、徳川のむかし
 にかじりついでるも、世
 間は自分を置き去りして、
 ずん／＼先へ進んでゆく。
 いつか、副島に會つたと
 き、彼は

「いつまでも、助太刀
 屋でもないぞ、いゝ加減に
 足を洗つて時勢の波に乗る
 がよい。神州はいま夜明け
 だ。日本民族が全世界に強
 く、たゞしく、朗かに呼び
 かけるときが来たのだ。そ
 の呑んでをる短剣のかはりに
 洋書の一冊もふところに入
 れるがよい。
 と、いつてくれた。その
 ときは副島の忠言に、むや
 みと腹が立つたが、一度延
 達館に足を踏入れ、華やか
 な開化ぶりに接してみると
 こゝ二三年のあひだの、日
 本の非常な變りやうをまぎ
 ら／＼と見せつけてくれた。
 神州はいま夜明けだ！
 この言葉が、いま／＼いな

んとなる、新鮮に、生々と
 耳にひびいてくる。時勢の
 潮に乗り、新政府の一つの
 椅子へつくか……。
 だが、そこまで思案して
 るると、やはり、性格が禍
 してか片意地にも、そのあ
 まい誘惑に背を向けたくな
 る。



「なんの、いまださら薩
 摩の芋だちに、頭がさげら
 れようか、あくまでも踏止
 まつて、いや新しい潮流
 に逆行して、痛快に新政府
 に反抗して、そして、舊時
 代人の最後を飾らう。

さういふ、ひとつの悲壯
 感が彼を一種の煽情家にし
 てしまふ。
 西郷の長兵など待つてゐ
 られない、内政攪亂の秘密
 結社の噂の主がどこのどい
 つでもいゝ自分もこゝろで
 新政府倒壞の看板をかかげ
 てやらうと、おもつた。
 刺客から助太刀稼業へ、
 その助太刀商賣からこんど
 は内政攪亂の陰謀へ……反
 逆児の、孤獨癖が昂じてく
 ると、たうとう、こんな獨
 善らしい悪癖へと病體が昂
 進してくる。
 だが、刺客や助太刀屋な
 ら、たつたひとりではないが

いやくも内政攪亂の本格
 仕事になると、明治勤王黨
 張りに同志を集めねばなら
 ぬ。
 同志——孤獨癖の獨善家
 には足手纏ひの同志など厄
 介至極だ……。そんな黨派

ぶりも、大志賀には性に合
 はぬ。
 「たつた一人だつて、
 内政を攪亂して、幕末のど
 さくさにかへらせることが
 出来るさ。おれのために配
 置したやうな選卒三千人、
 そんな難兵共を向ふに廻す
 には、おれの腕が、あまり
 に高價すぎるわ。
 大志賀は、旗本上りの片
 意地から、おとむの生死さ
 へ不明なそのややくそから
 いよ／＼助太刀商賣を廢業
 して、たつたひとりの秘密
 結社？……へ轉身しその新

商賣の第一歩を、大隈の鐵
 道敷設工事現場へ運んだ。
 「大隈との一騎打ちだ
 これ以上の場所はあるまい
 大隈を惜めないかなしさに
 大隈を刺害するよりその仕
 事をこはしてやらうといふ
 のが、反逆児大志賀の、か
 なしい孤獨癖の獨善ぶりだ
 つた。
 品川の丁場——。
 海に臨んだ工事現場には
 枕木、砂利、敷石、レール、電
 線がいたるところにつまれ
 てゐる。

TEL 2-1418
 YAKUHO
 NISHIMURAY
 去 17:00
 PROJECTOR
 去 18:00
 CINE-CAMERA
PONY
 9.5 m. m

夜 間 診 療

腸胃病性

内 科 專 門

胃腸病科
 花柳病科
 性病科
 皮膚科

松村 性病胃腸院
 (平町南町一〇七番)

美 味 鯉 じほから

当店特製

鯉節賣出し

品川の丁場——。
 海に臨んだ工事現場には
 枕木、砂利、敷石、レール、電
 線がいたるところにつまれ
 てゐる。

魚問屋
 店 商 榮 盛 賀 志
 (三一二電) 目 丁 四 平

齒科口腔外科
 レントゲン科

院長 東山廣科 原 精一
 東京齒科 醫學士 柏倉武男

平町土橋通り
 電話三一三番

原齒科醫院

婦人科 院長 木村寅次郎
 外科 醫學博士 内木宗八
 藥局 藥劑師 立 番 彌 一

平町新川町十九
 病室完備
 入院隨意

木村病院
 電話一六四番